

## 大宮教会の皆さま、主のご復活、おめでとうございます。

ご存知の通り、2月にトルコ南東部とシリアにおいて、大地震が発生し、多くの被災者と50,000人以上の死者が出ました。現在、たくさんの被災者は寒い中、家のない状態で、援助を受けながら、生活を送っています。そのニュースを耳にした時、私たちは彼らに共感し、彼らのために何かをしなければならないと考えているのではないかと思います。私たちの小教区はカリタスさいたまの呼びかけに応じて、大地震の被災者のために、援助募金に協力しています。

全世界の教会と小教区と共に、復活祭をお祝いする私たちは、トルコ南東部とシリアにおける大地震の影響で亡くなった人々と被害を受けた人々のために、お祈りを神様にささげることがを忘れないように心に留めておきましょう。お祈りを通して、私たちは同じ家である地球に住んでいる兄弟姉妹との関わりを具体的に示すことができるのです。

復活祭をお祝いする心を持つ私たちは、信仰の恵みを与えてくださった神に感謝いたしましょう。この恵みのおかげで、私たちは神の存在を見出し、洗礼を受けることによってイエスの弟子と小教区のメンバーとなりました。信仰は私たち自身の努力や能力で得られたものではなく、私たちに対する神の一方的な無償の愛で与えられたものです。言い換えれば、信仰は私たちへの神から与えられた霊的なプレゼントなので、私たちはそれを大切にしなければなりません。

復活の聖なる徹夜祭の火の祝福式において、司式司祭は復活のろうそくに火を灯す前に、次のようなことばを唱えます。

「キリストはきのうときょう、はじめと終わり、アルファとオメガ、時間も永遠も、かれのもの、栄光と支配はかれに、世々としえに。アーメン。」

教会は時間が神のものであり、神に完全に属すものであることを肯定します。神以外、誰も時間をコントロールすることができないことを私たちは認めざるを得ません。それを理解した私たちは、コロナの複雑な状況の中に置かれた私たちの共同体をいつも守り、私たちが小教区の聖堂に集まり、共に復活祭を祝う時間を与えてくださった神に感謝いたしましょう。コロナの影響で毎週の主日のミサにあずかれず、ご聖体の秘跡を通してイエスに出会えなくても、イエスは絶えず私たちのそばにおられ、同行してくださるに違いあり

ません。私たちはそれが肉体の目には見えませんが、信仰の目で見出すことができたのではないかと思います。

聖書の中で、イエスの復活の知らせを受けて、喜んでいた婦人たちの姿が描かれています。イエスの受難と十字架上の死に直面した弟子たちと婦人たちは悲しみと絶望の中に落ち込んでいました。しかし、現れた天使たちからイエスの復活という知らせを受けたとき、イエスの墓を見に行ったマグダラのマリアともう一人のマリアが恐れながらも大いに喜び、急いで帰り、「主の復活」を弟子たちに知らせました。

「婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った」(マタイ28・8)。

マタイ福音書によると、婦人たちは復活の喜びの最初の証人です。彼女らはその喜びを自分だけのものとせず、弟子たちにもたらしように主の天使から招かれました。そして、彼女らのおかげで、弟子たちは復活の喜びにあずかれました。

洗礼を受け、イエスを自分の生活に招いた私たちも、弟子たちと同じく主の復活の喜びにあずかりました。復活の喜びにあずかった私たちは信仰生活の中でその喜びを兄弟姉妹に述べ伝え、それを分かち合うように呼びかけられています。復活の喜びは分かち合いの喜びであり、共感の喜びであり、希望の喜びであり、愛の喜びであります。絶望の中に落ちた弟子たちの悲しみに共感し、彼らに希望を与えるために、さらに彼らをよく愛されたからこそ、復活し、天に昇られる前に、イエスは弟子たちに何度も現れたのです。

復活祭を以て、大宮教会における私の任期が終了します。大宮教会における任期のあいだ、信徒委員会の方々をはじめ、共同体の皆さまがいつも協力してくださったことに、心から感謝いたします。どこに行っても、お互いのためにお祈りすることは最も大切なことだと思います。私たちは同じさいたま教区に属していますので、またどこかでお会いする機会がきっとあるでしょう。

どうぞ、良い復活節をお過ごしください。

2023年3月1日

カトリック大宮教会

主任司祭 谷 国定